



中央公園プロムナード周辺の
まちづくりビジョン

(案)

令和8年4月時点

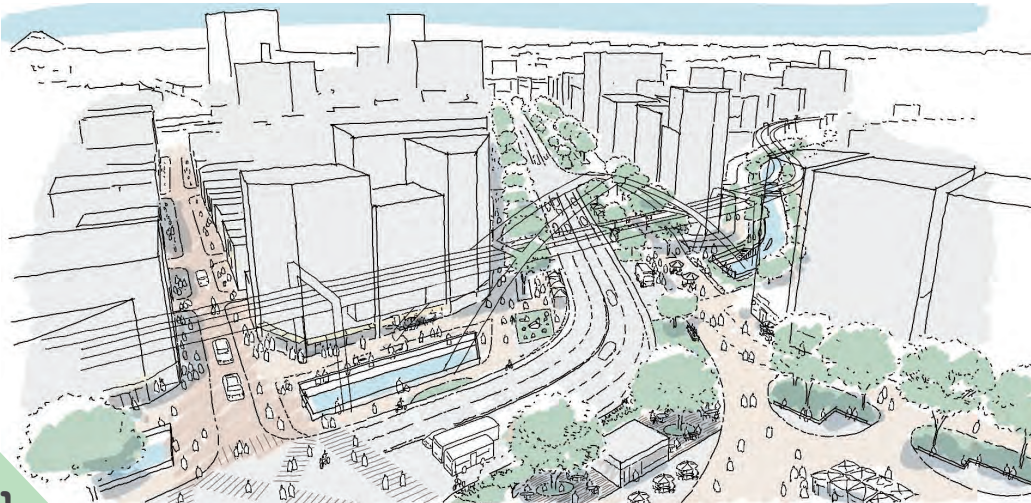
千葉市

中央公園プロムナード(以下、中プロという)は、道路空間の再編により、車中心から「ひと中心」の、居心地の良さ・楽しさを感じる、ウォークブルで県都の賑わいを感じるプロムナードへと変わっていきます。

2026年の中プロ



20XX年の中プロ



- I まちづくりビジョンとは P.3
- II 中プロとは P.5
- III 中プロへの期待 P.17
- IV 将来ありたいまちの姿 P.19
- V 将来像実現に向けた戦略と取組方針 .. P.23
- VI 中プロ周辺エリアの特性・役割 P.37
- VII ロードマップ P.39

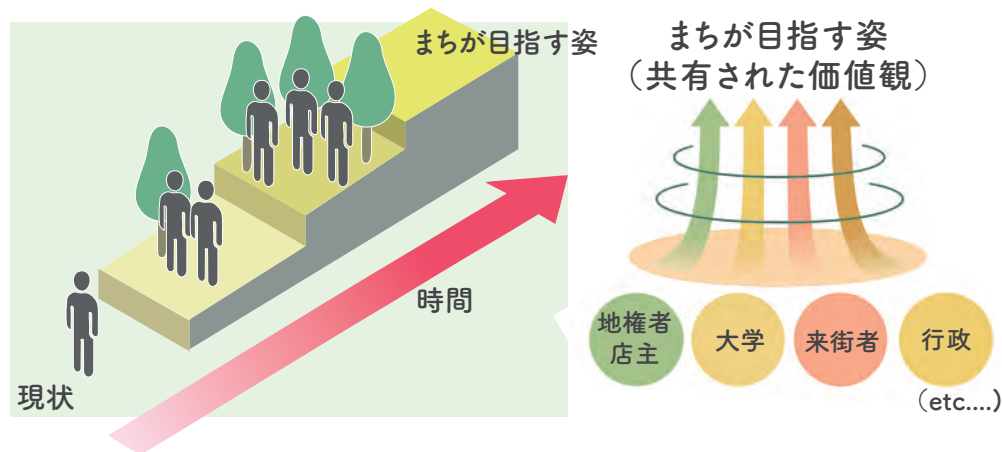
- 付録① 中央公園プロムナード周辺のまちづくりビジョンができるまで
- 付録② 中央公園プロムナードによる千葉駅周辺への波及
- 付録③ 軸による賑わいの波及イメージ

I まちづくりビジョンとは

まちづくりビジョンってなに？

まち・エリアが目指す姿を描き・示すもの = まちづくりビジョン

まちづくりビジョンとは、まち・エリアに関係する人たちの共有された価値観のもと、目指す姿を描き・示すものです。将来的に実現したいまちの姿を示すことで、まち・エリアの地権者や、商店の店主、大学、来街者、行政等が、同じ目標に向かい、取組を進めていくことができます。



中央公園プロムナード周辺のまちづくりビジョン策定の背景

千葉都心では、大型商業施設の撤退や、建築物の建て替え・更新が進まず、都心の求心力低下が懸念されてきましたが、昨今は、JR千葉駅の駅舎・駅ビルの建替等に加え、東口エリアに位置する千葉駅のメインストリートである中プロ周辺エリアの大型ビルの建て替えや、沿道でのまちづくり活動が活発化しています。

これを契機に、中プロでは、車が主役となっている道路空間を、ひと中心の空間に再編することで、まちなかでの回遊を促し、人々が集い、思いがけない出会いが生まれる、居心地が良く歩きたくなるまちなかを実現するため、今後のまちづくりの方向性や将来像実現に向けた取組を描き、関係者間で共有する、中央公園プロムナード周辺のまちづくりビジョンを策定することといたしました。

中央公園プロムナード周辺のまちづくりビジョンに関係する皆さん



II 中プロとは

中プロは、千葉駅東エリアに位置し、千葉駅と中央公園を結ぶ千葉市のメインストリートです。中プロは50mの広幅員であり、ケヤキの並木通りとしての特徴を有することや、上空を通る千葉モノレール、葭川の水辺など、千葉市の資源と交差しています。これまでの中プロは、時代によって、より利用しやすい形にアップデートされてきました。

千葉駅と中央公園を結ぶ幅員50mのメインストリート



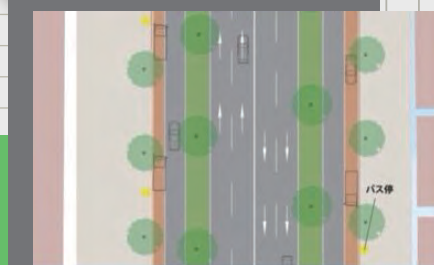
1960年頃～

30年間

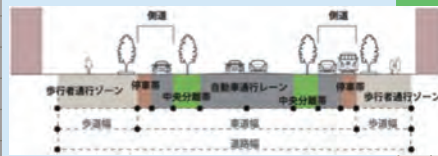


戦災復興計画による中央公園プロムナード

街路樹帯が4列あり、両側に側道がありました。



戦災復興計画による平面図



戦災復興計画による断面図

1989～1999年

10年間

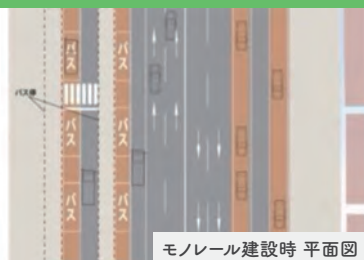


モノレール建設時の中央公園プロムナード

千葉都市モノレール千葉駅の建設及び駅前広場の改良に伴い、駅前広場内のバス停機能が中央公園プロムナードに移設され、中央分離帯がなくなり、バス停が配置されました。



モノレール建設時断面図



モノレール建設時 平面図

25年間

1999年～現在



現在の中央公園プロムナード

駅前広場の整備が完了した後、1999年頃に中央公園プロムナードも全面改良されました。その結果、街路樹帯は2列になり、側道は無くなりましたが、歩道の幅員は広がっています。このように、中央公園プロムナードは時代の変化に応じて空間構成を更新してきた経緯があります。現在は、ウォーカブルなまちづくりの機運の高まりなど、中プロ周辺を取り巻く環境が変化しており、次の時代に向けた転換の時期に差し掛かっているものと考えています。



現状断面図



現状平面図

II 中プロとは

中央公園プロムナードの歴史

県都千葉の誕生

1873年に印旛県と木更津県が合併し、千葉県が誕生しました。地理的に中間で、近くに港がある千葉町に県庁が置かれ、千葉市は急速に発展します。



1880s

迅速測図 農研機構農業研究部門より

1963年に国鉄千葉駅が移転され、駅前大通りが完成しました。



1963

1967年 今昔マップon the webより

大通り全体の発展

千葉市中央公園沿いには千葉PARCOが、駅前大通り沿いには千葉そごうや三越千葉店が立地し、回遊性のある都市空間が形成されました。

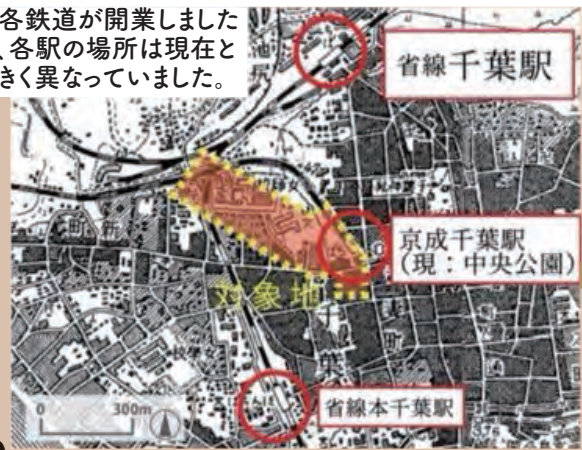


1980s

1987年 今昔マップon the webより

複数の千葉駅

各鉄道が開業しましたが、各駅の場所は現在と大きく異なっていました。



1920s

1930年 今昔マップon the webより

大戦復興の興と生

戦災により中心部に大きな被害が出ました。戦災復興都市計画により幅員50mの大通りが計画されます。



1940s

戦災復興土地区画整理 出典: 「千葉市史」現代編、1974、8p

JR千葉駅周辺に集中



2020s

2024年現在 国土地理院より

II 中プロとは

中プロ周辺でのまちづくりの活動

千葉公園関連整備及び、中央公園・通町公園の連結強化が進捗

〈千葉公園関連整備〉

千葉公園では、施設の老朽化や樹木の過密化といった課題に対応するため、市内で初めてPark-PFI（公募設置管理制度）を活用し、再整備を進めてきました。その取り組みの一環として誕生した賑わいエリア「芝庭」が、2024年4月26日にグランドオープンしました。



〈中央公園・通町公園の連結強化〉

中央公園と通町公園の連結強化は、年間約70万人が訪れるイベント拠点である中央公園と、年間約100万人の参拝者を迎える千葉神社、その中間に位置し千葉市ゆかりの地である通町公園を一体的に捉え、歴史的な空間や緑の回廊として活用することで、千葉市や千葉神社をはじめとする「千葉らしさ」を感じられるまちづくりを進める取り組みです。



ウォーカブルなまちづくりの機運

中プロでは、「パラソルギャラリー」「ちば富士見屋台横丁」「CHIBA SDGs Parklet Project」などの取り組みが行われ、道路空間を活用した「ひと中心」のウォーカブルなまちづくりに対する機運が高まっています。

取組・イベントの様子

〈パラソルギャラリー〉



パラソルギャラリーは、中プロに並べられた白いパラソルの下、市民の作品やパフォーマンスを展示・表現する催しです。

〈ちば富士見屋台横丁〉



中プロが屋台横丁になる取組みであり、千葉のグルメを一堂に集め、中洲風屋台が駅前大通りに集結します！

〈CHIBA SDGs Parklet Project〉



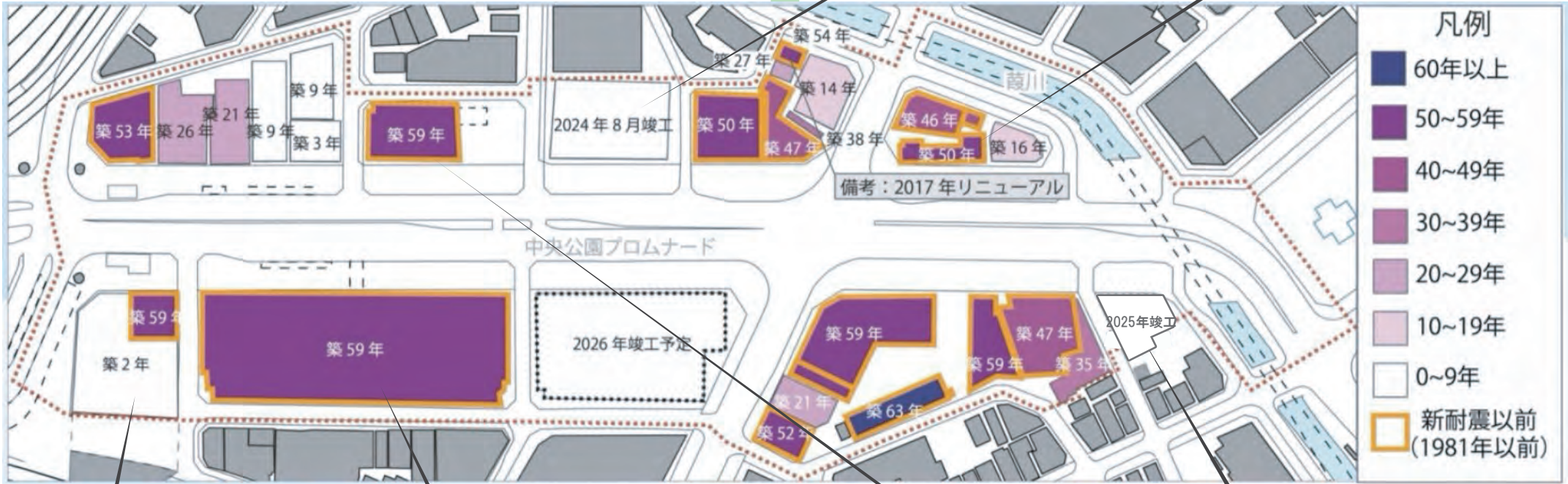
中プロの京葉銀行本店前に、フードロス対策をはじめとしたSDGsに取り組む出店者が集結します。フードやドリンクの提供や、規格外の野菜・果物などの販売、フードライブのほか、鍵盤ハーモニカデュオによるライブ等も開催されています。

II 中プロとは

中プロ沿道の更新

中プロ沿道には、新耐震基準（1981年）が導入される以前の建築物が14/27件と半数以上であることが特徴的です。これらの建物は老朽化や耐震性の懸念から、今後10年間で建て替えが予想されます。

○中プロ沿道建築物2024年時点のデータ



©千葉大学都市計画松浦研究室 都市デザインスタジオ2024作成

ネクストサイト千葉ビル



朝日生命千葉ビル



マインズ千葉



塚本大千葉ビル



京葉銀行本店



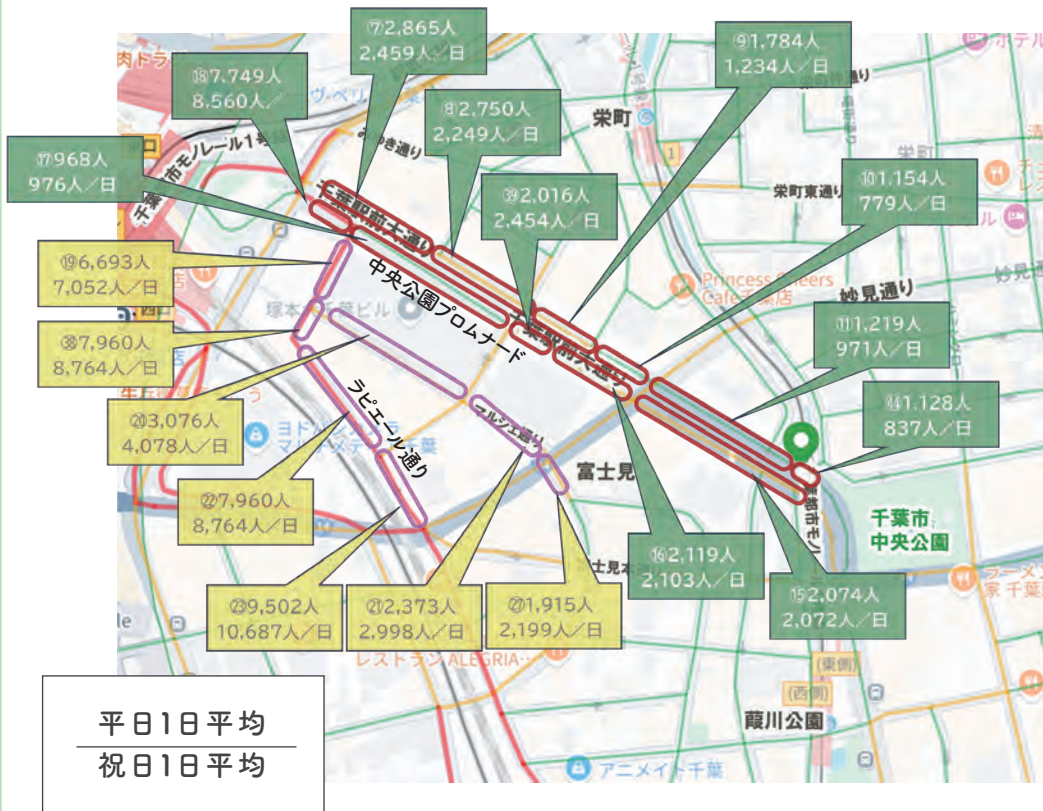
エクセレントシティ千葉 THE RISE

II 中プロとは

中プロ周辺エリアの通行者・回遊状況

通行者状況

- ・中プロの通行者は、中央公園に近づくにつれて減少傾向
- ・通行量は、中プロより、マルシェ通りやラピエール通りの方が多い



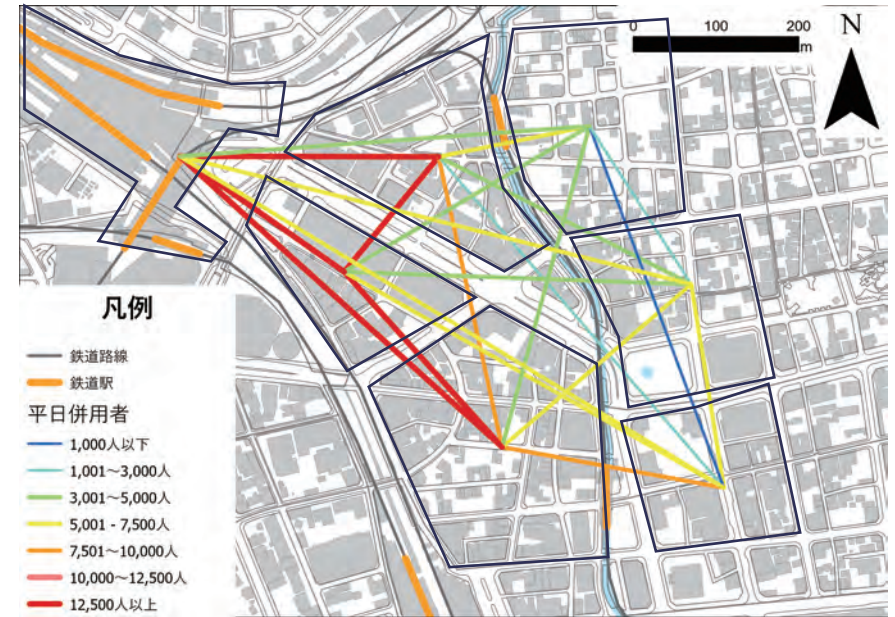
※:人流ビッグデータデータ提供:KDDI・技研商事インターナショナル「KDDILocation Analyzer」調査に用いたデータはau(KDDI)スマートフォンの位置情報ビッグデータ。(auスマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性(性別・年齢層)情報データ)

- ・データには20歳未満、およびインバウンド観光利用者のデータは含まれません。
- ・分析結果の数値は全人口推計値(サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値)となります。

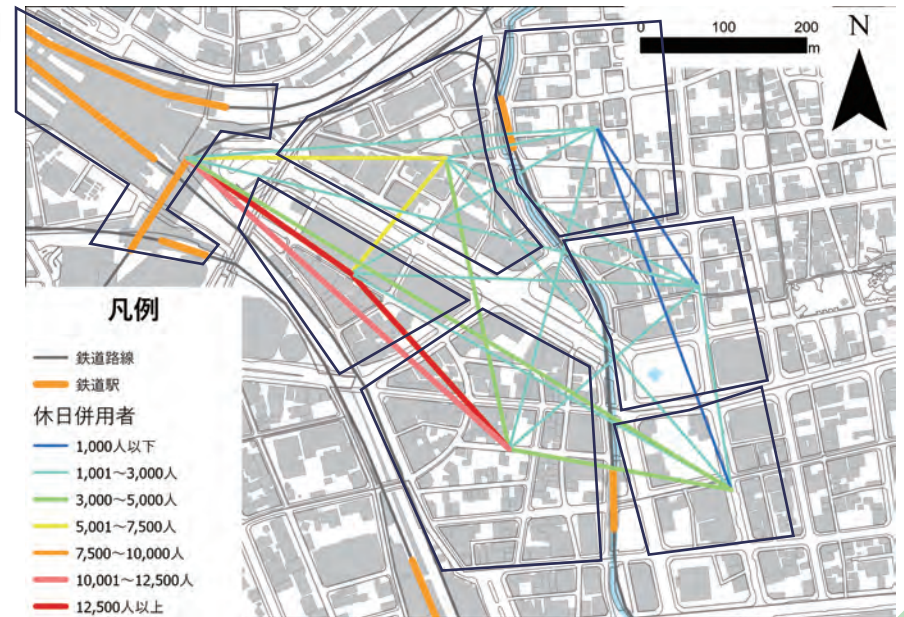
回遊状況：中プロ周辺エリアをブロック分けした時の併用での滞在者

- ・中プロ南側や、駅に近いエリアでは一定の併用利用者がみられる
- ・一方、中央公園周辺との併用での滞在者は少ない傾向

平日



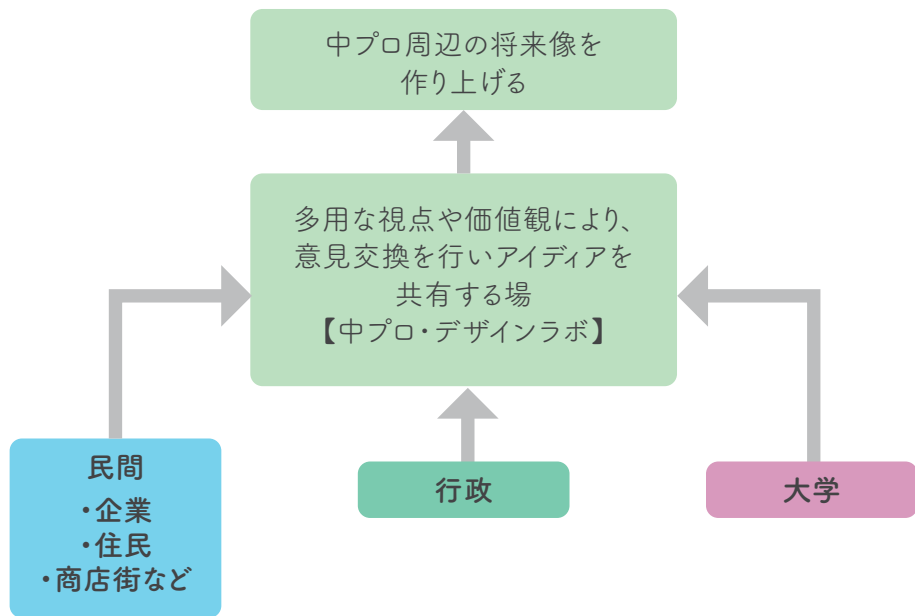
休日



II 中プロとは

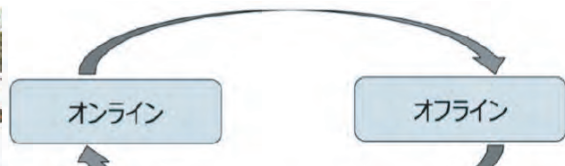
中プロ・デザインラボ

中プロ・デザインラボは、市民、事業者、大学、行政などが、多様な視点や価値観をもとに、中プロおよびその周辺の課題やテーマについて、意見交換し、将来像を検討するための「意見交換の場」です。中プロ・デザインラボでは、市民の皆様はもちろん、駅を利用する人やまちを訪れる人など、多様な立場の声を大切にしながら、緩やかにつながりながら一緒にまちの未来を作っていきます。



オンライン・オフラインでの意見交換の場

中プロに対する意見収集では、「意見交換の場」であるラボの開催に加えて、より様々な方の声をくみ取れるよう、デジタルプラットフォーム（ウェブ媒体）での意見収集も行っております。

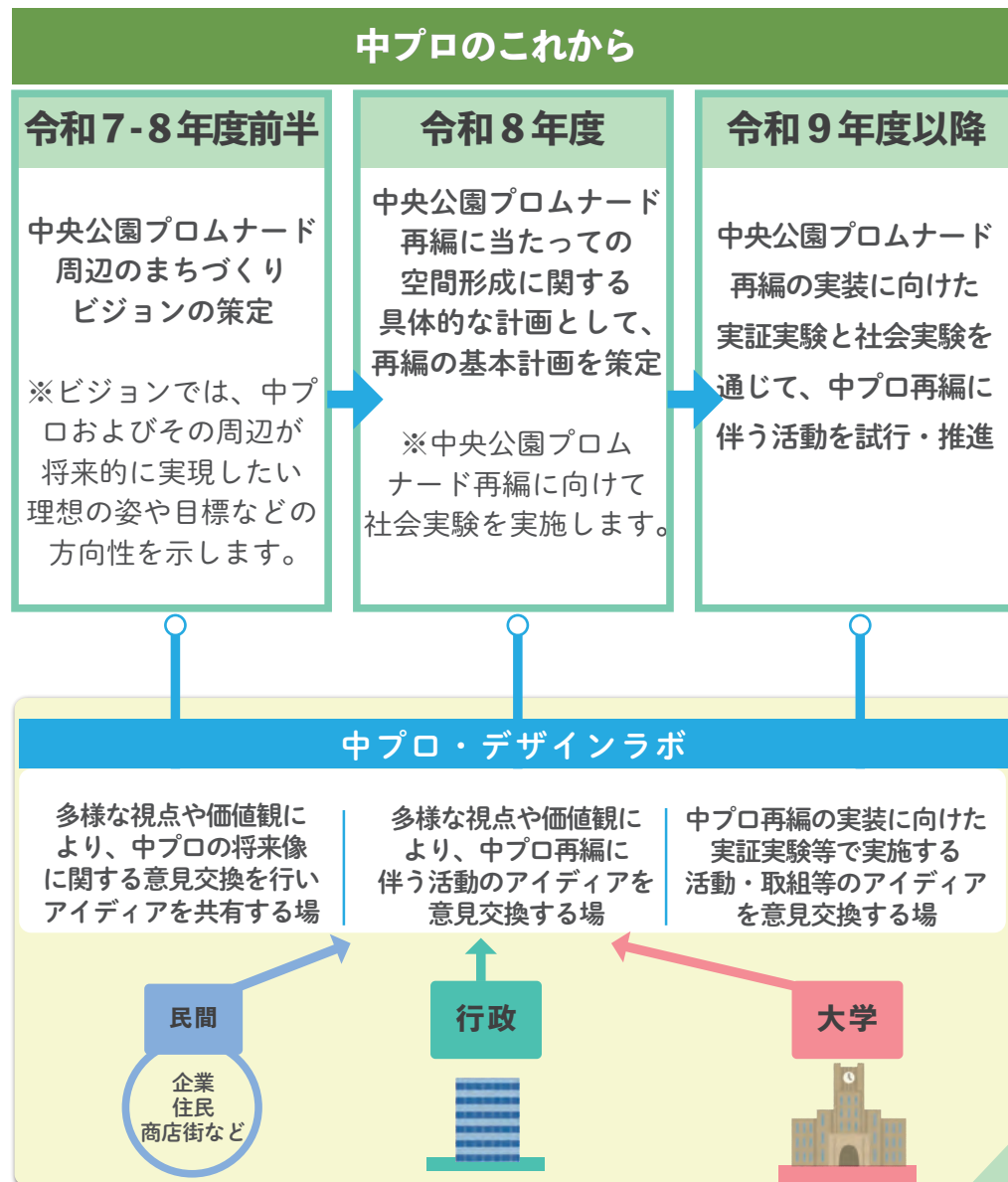


より多様な人が意見できる
様々な意見を俯瞰しながら整理できる
気軽に参加できる

デジタルが苦手な人も参加できる
より突っ込んだ議論ができる
積極的に意見を言わない人にもリーチできる

中プロのこれからと中プロ・デザインラボの進め方

中プロ・デザインラボは、中プロの再編に向けて、基本計画や社会実験・実証実験等について、意見交換する場として引き続き開催していきます。



中プロのこれから

令和7-8年度前半

中央公園プロムナード
周辺のまちづくり
ビジョンの策定

※ビジョンでは、中プロおよびその周辺が将来的に実現したい理想の姿や目標などの方向性を示します。

令和8年度

中央公園プロムナード
再編に当たっての
空間形成に関する
具体的な計画として、
再編の基本計画を策定

※中央公園プロムナード再編に向けて社会実験を実施します。

令和9年度以降

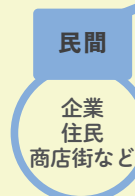
中央公園プロムナード
再編の実装に向けた
実証実験と社会実験を
通じて、中プロ再編に
伴う活動を試行・推進

中プロ・デザインラボ

多様な視点や価値観により、中プロの将来像に関する意見交換を行いアイデアを共有する場

多様な視点や価値観により、中プロ再編に伴う活動のアイデアを意見交換する場

中プロ再編の実装に向けた実証実験等で実施する活動・取組等のアイデアを意見交換する場



III 中プロへの期待

中プロ・デザインラボ参加者個人や中プロの沿道事業者・活動の担い手からの16の期待

安全・安心

- ・夜は明るく
- ・歩いている人の顔が見える
明るさ
- ・治安の向上・改善



歩きやすさ・回遊性

- ・広い歩道
- ・ストレスなく歩ける歩行空間
- ・途中でひと休み



飲食・夜の賑わい

- ・おしゃれカフェ
- ・オープンバー
- ・木陰でビール



中心市街地の賑わい

- ・インバウンド需要の取り込み
- ・県都のメインストリートとしての賑わい
- ・出店者と来訪者の交流
- ・沿道が儲かる



緑陰・屋外快適性

- ・木陰・芝生・日陰・草花
- ・夏は涼しく、秋は紅葉
- ・葭川の水辺でゆっくり
- ・既存の自然と新たな緑化



歩道拡幅による 滞在空間の更新

- ・店舗前の道路空間の活用
- ・公園のように感じる空間
- ・実用性の高いベンチ設置



起業・スタートアップ

- ・すぐ何かを始められる
スペース
- ・沿道で挑戦



つながり・交流

- ・出展者と来訪者の交流シーンを増やすことで、人がより集まり賑わいが増える
- ・住民の交流
- ・来訪者同士の交流機会



文化・歴史・美術館

- ・900年の歴史
- ・千葉神社
- ・美術館の魅力を可視化



イベント・マルシェ

- ・毎週魅力的なイベント
- ・イベント等をやりやすい歩道
- ・トイレ、電源、上下水の設置、貸し出し



まちの資源・魅力

- ・良い飲食店をつくるのが、街の財産になる
- ・隠れている魅力を見せる、磨く・集める



沿道施設・テナントとの共存

- ・沿道施設との共存に向けた道路空間の有効活用や歩道拡幅



結節点

- ・駅からにじみ出す
- ・バスの行先
- ・交通の結節点



景観・街並み

- ・思わず写真を撮りたくなる街並み
- ・見通しがよく統一感がある



多様性

- ・ファミリー・ママ友
- ・高齢者
- ・学生
- ・労働者
- ・ペット



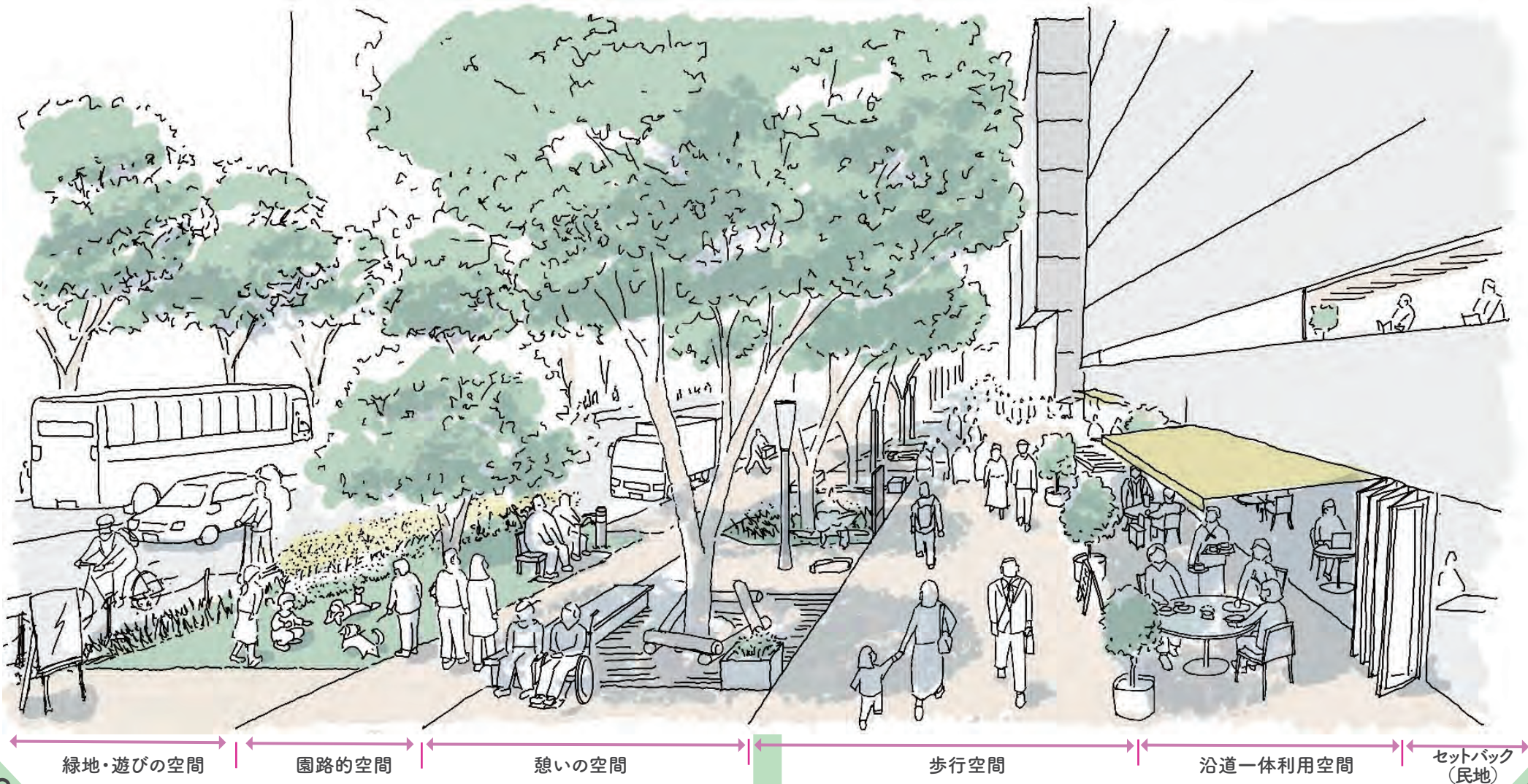
隣接店舗・沿道事業者間の連携

- ・既に構築されつつある事業者間の連携体制を継続・拡大



公園のように過ごす みんなのプロムナード

歩くだけじゃもったいない。過ごすことで見える、千葉の新しい風景



IV 将来ありたいまちの姿

実現したい中プロのイメージ

中プロの将来ありたい姿を実現する上で必要となる要素として、「心惹かれる」「賑わい潤う」「安心安全清潔」の3つを掲げます。



中プロ・デザインラボに参加できない人でも意見交換に参加できるデジタルプラットフォームでも3つの方針に対して、重視したいことを意見収集しました！

Q1

中プロやその周辺を「心惹かれる通り・場所」にするために、あなたが重視した方が良いと考えることはなんですか？

人が集う 20.3%
回遊性がある 20.3%



行きたくなる(目的地となる場所がある) 17.4%
滞在できる(ゆっくり過ごせる場所がある) 18.2%



Q2

中プロやその周辺を「賑わい潤う通り・場所」にするために、あなたが重視した方が良いと考えることはなんですか？

魅力ある店舗がある 17.9%



イベントがしやすい
されやすい 17%



収益性がある(商いや活動が継続できる) 14.2%



Q3

中プロやその周辺を「安心安全清潔な通り・場所」にするために、あなたが重視した方が良いと考えることはなんですか？

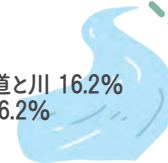
季節を感じやすい 21.2%



安心して住める・歩ける
(街灯・治安) 18.2%



季節を感じるきれいな道と川 16.2%
つながり・交流がある 16.2%



V 将来像実現に向けた戦略と取組方針

中央公園プロムナードでの戦略と取組方針

戦略① 場所性



選びやすい、使い
やすい場所づくり

<取組方針>

- ・休憩・滞在できる空間づくり
- ・子育て・多世代に対応する空間づくり
- ・イベント活用ができる空間づくり

戦略② 機能性



快適で質を高める
機能の付加

<取組方針>

- ・バリアフリーの実現
- ・日差しや雨への対応
- ・ユニバーサルデザイン
- ・多様な機能・サービスの導入

実現したい中プロのイメージ

●:心惹かれる ●:賑わい潤う ●:安心安全清潔

戦略③ 経済活動



事業・店舗が集まる
マネタイズできる
空間・活動づくり

<取組方針>

- ・経済活動の制度の適用・創設
- ・多様なイベントの開催
- ・多様な店舗・施設の集積

戦略④ 景観・印象



みどりと明るさで
安心する・心地よい
エリアブランディング

<取組方針>

- ・明るい街並みづくり
- ・高質な緑の付加
- ・眺めの良さの形成
- ・並木や草花、木陰の創出
- ・治安の改善

戦略⑤ 移動・回遊



来やすい・回遊しやすい
歩行者中心の空間づくり

<取組方針>

- ・回遊性の向上
- ・自転車との共存
- ・新交通への対応
- ・バスの利便性
- ・歩行者中心の歩道

V 将来像実現に向けた戦略と取組方針

中プロ(ビスタ景観)



過ごし方のイメージ

歩いていると、目に入る緑が多く、夏場も心地よく散歩もしやすい



(戦略②、④)

自転車レーンが整備されたから、安心して通行・来訪できる



(戦略⑤)

交差点がコンパクトになったから、足が悪くても渡り切れない心配が無くなった



(戦略⑤)

路肩は、用途に応じてフレキシブルに使えるスペースであり、荷捌きや停車スペース、キッチンカーの利用などに活用できる



(戦略③、⑤)

V 将来像実現に向けた戦略と取組方針

中プロ:昼(沿道との関係)



緑地・遊びの空間

園路的空間

憩いの空間

歩行空間

沿道一体利用空間

セットバック(民地)

過ごし方のイメージ

公園のような芝生・みどりの空間で、子どもが遊んだり、散歩する人が休んだり



(戦略①、④)

沿道ワーカーが仕事の合間に木陰の空間で、コーヒーを飲んで一息



(戦略①)

広幅員で段差が少ない歩道だから、車いす利用者も通行しやすい



(戦略②)

子どもが遊ぶ姿を、お母さんが沿道のテラス席から見守りながら一息



(戦略①、③)

V 将来像実現に向けた戦略と取組方針

中プロ:夜(沿道との関係)



賑わい空間

園路的まちぶら空間

憩い&演出空間

歩行空間

沿道一体利用空間

セットバック(民地)

過ごし方のイメージ

イベント出店により、
たくさん物売り、
多くの来訪者に
認知してもらう



(戦略①、③)

散歩中に休憩して
いると、ストリートミ
ュージシャンが、音
楽を奏ではじめ心
地よく滞在

(戦略①)



女性一人だと、昔
は暗くて通りたいと
あまり思わなかつ
たが、通りが明る
くなって安心

(戦略④)



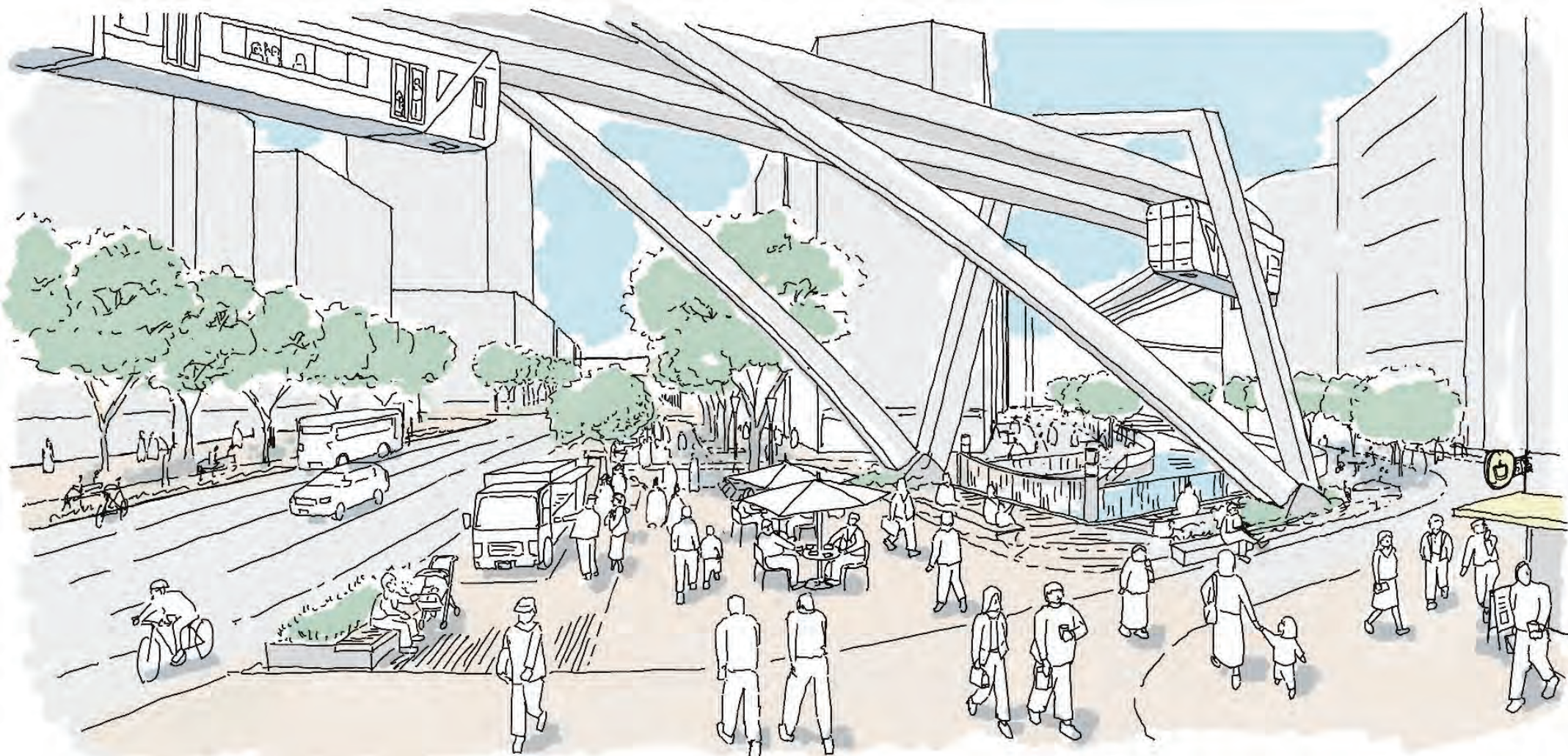
沿道のオフィス
ワーカーが、仕
事終わりの一杯
を楽しむ

(戦略①、③)



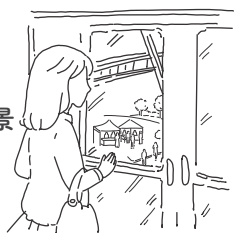
V 将来像実現に向けた戦略と取組方針

中プロと葭川：昼



過ぎし方のイメージ

モノレールの車窓から統一感のある街並み景観と中プロを軸とした賑わう風景が良く見える



(戦略③、④)

日替わりでキッチンカーが出店しているから、ランチの幅が広がる



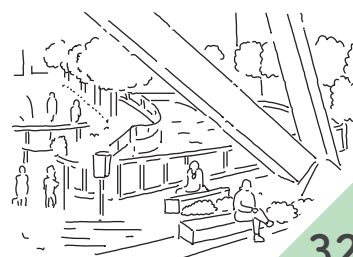
(戦略①、③)

散歩の途中にベンチに座りながら、中プロ周辺エリアを回遊できるから、高齢者の方も安心



(戦略①)

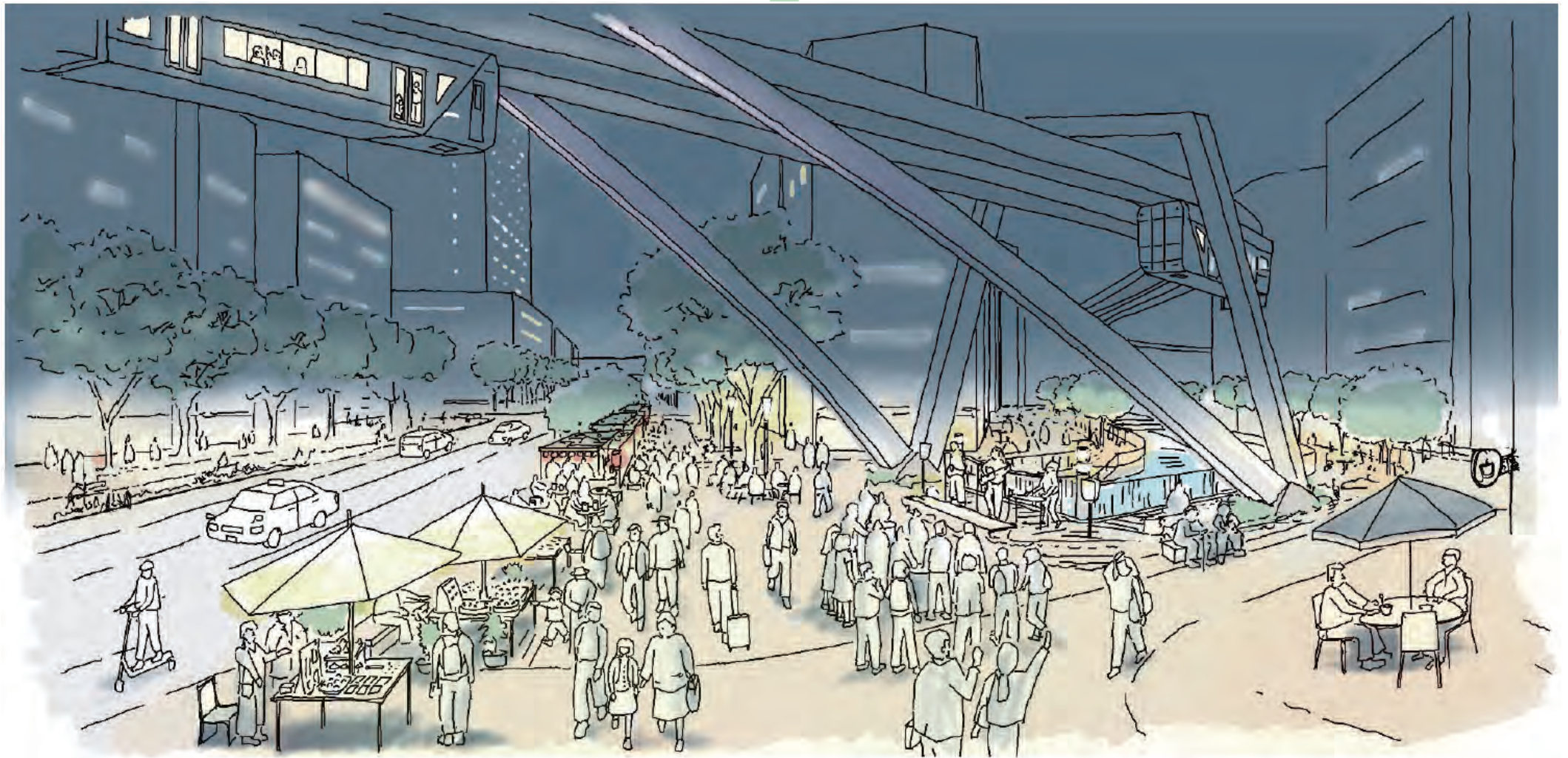
中プロのみどりと、葭川の親水空間が交差する、心地よく滞在しやすい空間



(戦略①、④)

V 将来像実現に向けた戦略と取組方針

中プロと葎川:夜



過ごし方のイメージ

活動の担い手として、
イベント出店等が
しやすい環境が
整っている



屋台出店に加え、
客席も設置され、
千葉の夜の中心
市街地を存分に
楽しめる



(戦略①、③)

多くの滞在者が
いる中で、学生
サークルや、地域
団体が音楽など
を披露できる



(戦略①)

夜の水辺景観の
演出がされており、
若いカップルや
ファミリーの観光客
が行き交う



(戦略④)

V 将来像実現に向けた戦略と取組方針

中プロ周辺の全体鳥瞰

中央公園を起点に、中プロ、葎川、富士見本通りが『みどり・うるおい』『賑わい』『街並み』でつながる

みどり・うるおい

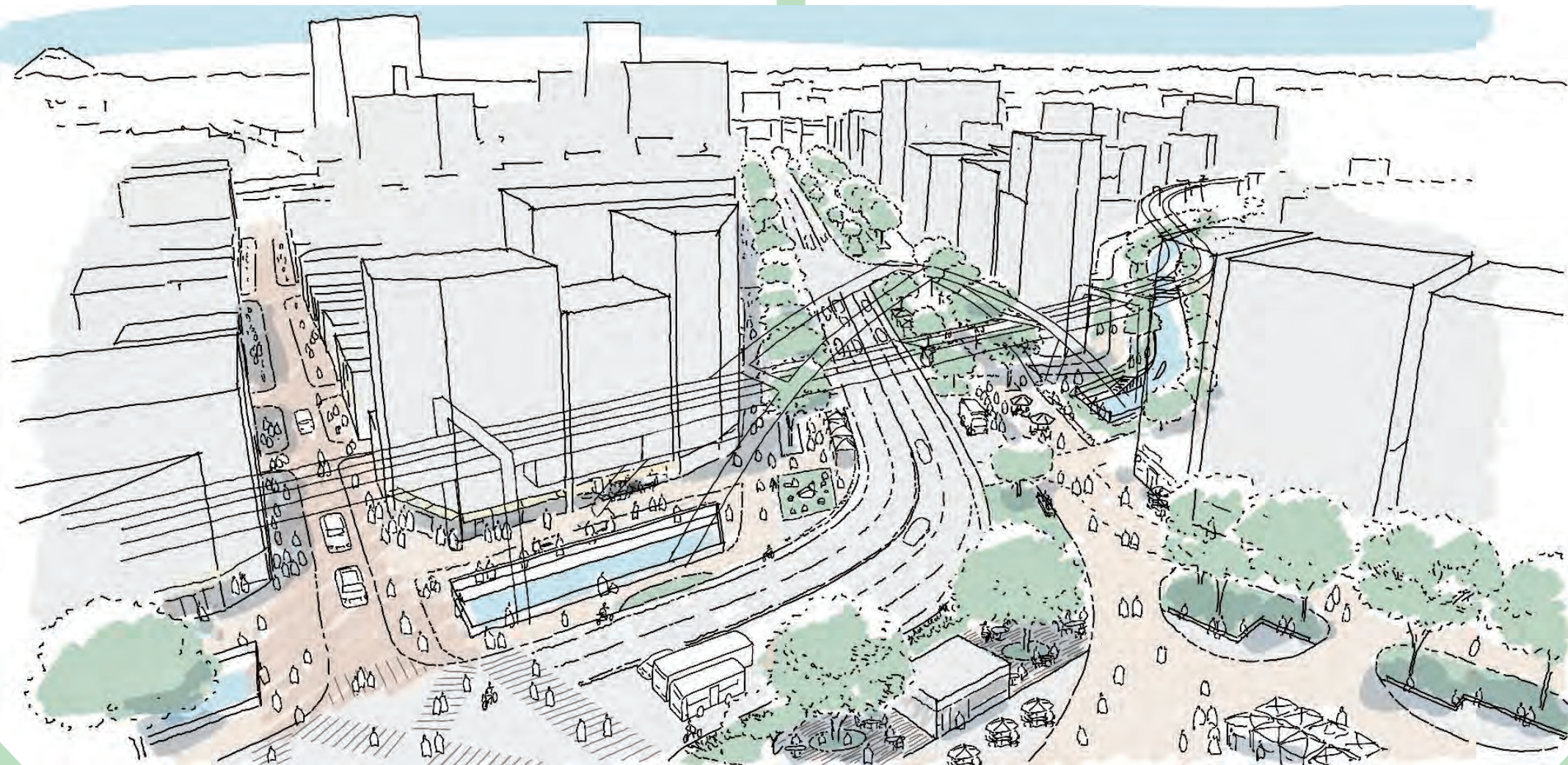
中プロ北側のアイレベルで感じられる高質な緑化と、そこに交差する葎川の水辺空間が相まって、居心地の良い空間を創出

賑わいの循環

中プロだけでなく、葎川、中央公園、富士見本通りの賑わいが、ゆるやかにつながり、賑わいが循環していく

街並み

中プロ沿道は、スカイラインと壁面ラインに統一感があり、品格と落ち着きのある現在の景観を基調として、将来に渡り継承していく



VI 中プロ周辺エリアの特性・役割

中プロ周辺エリアごとの特性・役割

中プロの役割

高質な緑の空間を伴う「緑の軸」を新たに形成し、既存の「賑わいの軸」と2つの軸により、目的に応じた多様な過ごし方が可能となり、特定の通りや場所に偏らない人の流れを創出し、中央公園や周辺商店街へとつながる回遊性の向上と、東エリア全体への賑わいの波及を担う。

中プロ北側

【環境】日当たりがよく、緑豊かな空間をつくりやすい
 【沿道】中規模のビルが立ち並び、グランドレベルには商業が並ぶみゆき通りや栄町に隣接し、ビジネスマンも多い
 【交通】千葉駅から中央公園・通町公園をつなぐ、みどりが感じられる居心地の良い動線

中央公園周辺

【環境】開放的で緑と一体となった、賑わいの拠点（公園・川・モノレールが交差）
 【周辺】古くからの飲食店等の商業や歴史・文化施設が集積

千葉駅東口周辺

【周辺】商業・業務のコアとして、更新が進む
 【環境】ビルと緑による街路景観
 【交通】車両・歩行者の結節点

中プロ南側×千葉駅（西銀座商店街）側

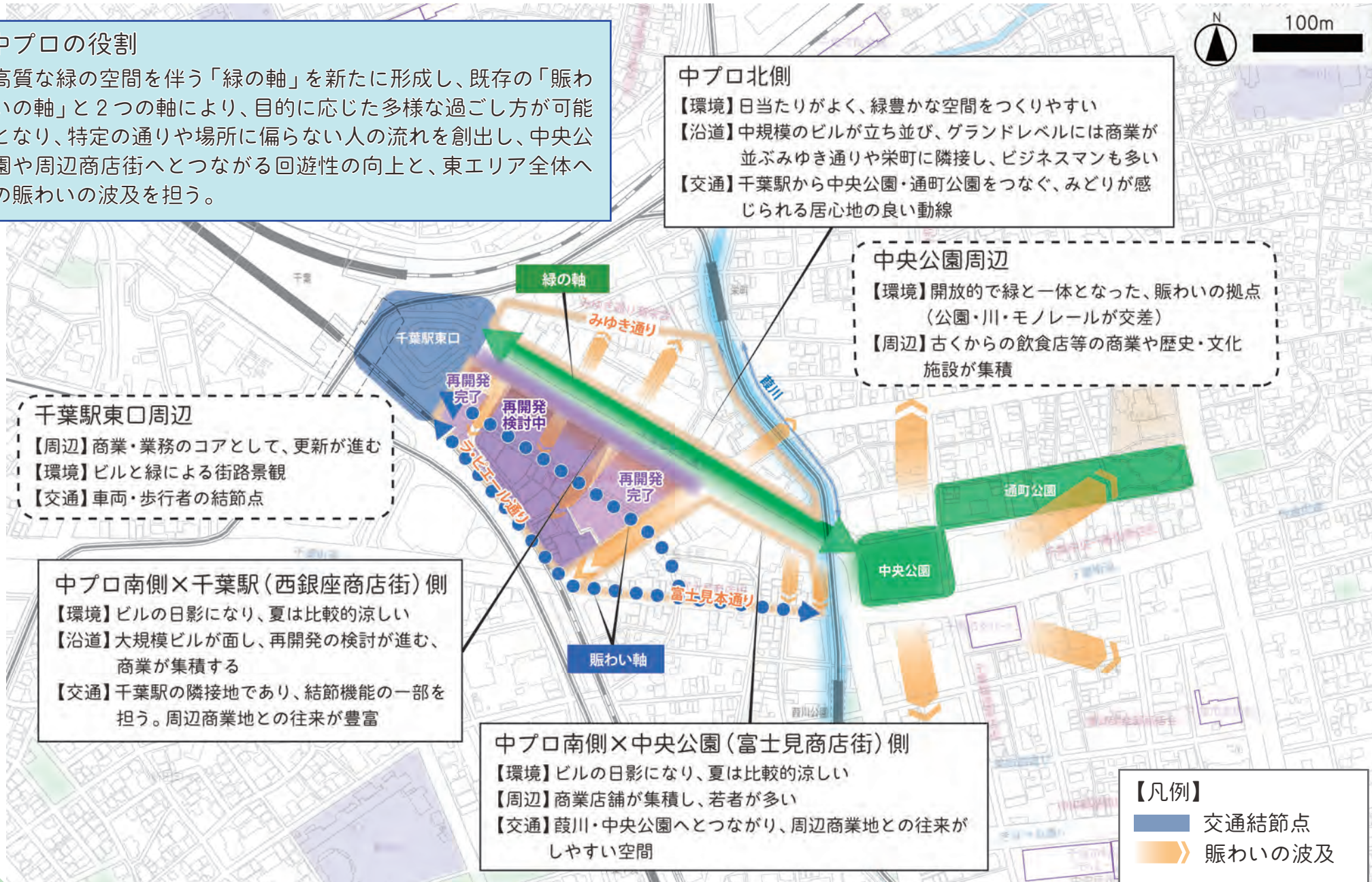
【環境】ビルの日影になり、夏は比較的涼しい
 【沿道】大規模ビルが面し、再開発の検討が進む、商業が集積する
 【交通】千葉駅の隣接地であり、結節機能の一部を担う。周辺商業地との往来が豊富

中プロ南側×中央公園（富士見商店街）側

【環境】ビルの日影になり、夏は比較的涼しい
 【周辺】商業店舗が集積し、若者が多い
 【交通】葭川・中央公園へとつながり、周辺商業地との往来がしやすい空間

【凡例】

- 交通結節点
- 賑わいの波及



Ⅵ ロードマップ

将来のまちの姿実現に向けたステップ

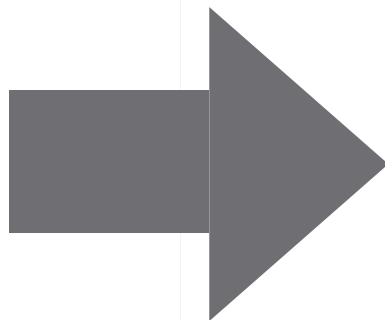
社会実験や実証実験を通じた
将来のまちの姿実現に向けた検証

道路空間再編のハード整備および
沿道の再開発の進展

再編された道路空間にて、
多様な活動が展開されるなど、
将来ありたい姿を実現

2030年

2040年



付録① 中央公園プロムナード周辺のまちづくりビジョンができるまで

第1回目 中プロデザインラボ 2025年2月21日(金)

中央公園プロムナードの未来を考える①

- ①千葉駅周辺の活性化グランドデザインの改定に向けた説明
- ②「千葉大学都市デザインスタジオ2024からの「千葉市の顔としての中央公園プロムナードのリデザイン」についての提案」を基に意見交換



第2回目 中プロデザインラボ 2025年6月2日(月)

中央公園プロムナードの未来を考える②

- ①千葉大学の松浦准教授によるまちづくりの将来像策定に向けた他都市の事例紹介、千葉駅周辺の現状についての講演
- ②「まち」のアイデアについて話し合うワークショップを実施



まち歩きと居心地調査 2025年7月13日(日)

中央公園プロムナードの未来を考える③

まち歩きを通じて参加者が感じた中プロ周辺の現状を踏まえて、今後どのような場所にしていくべきかを検討・意見交換
 ※まちなかの居心地の良さを測る指標調査(国土交通省)を実施し、中プロ周辺の居心地の良さを調査。



中プロ・オープンラボ 2025年11月20日(木)

まちづくりビジョン策定に向けて、有識者・実践者からの示唆を得る

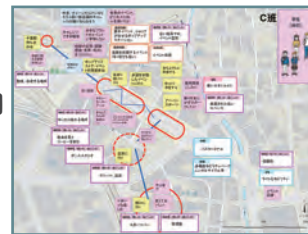
まちづくりビジョン策定に向けて、「プレイスメイキングでまちをともにつくる」、「ネイチャーポジティブ・アーバニズム」、「ウォークラブルなまちでの交通との共存の姿」をテーマに、有識者・実践者からの示唆をいただいた



第4回目 中プロデザインラボ 2025年10月14日(火)

将来起こって欲しい利用シーン実現に向けた戦略を考える

- ①参加者自身の価値とエリアの将来イメージの認識を共有
- ②中プロ周辺での滞在・活動場所とそれらをつなぐ動線を地図で落とし込み、移動等の動機(感情)と、利用シーン実現に向けた必要方策(機能・設え等)を意見交換



第3回目 中プロデザインラボ 2025年8月26日(火)

中プロ周辺エリアの将来イメージ・利用シーンを考える

- ①参加者が考える、自身の価値とエリアの将来イメージ(エリアの価値)を共有
- ②エリアの将来像等を踏まえた、来訪者のイメージと、その具体的な利用シーンを意見交換



第5回目 中プロデザインラボ 2025年12月11日(木)

中央公園プロムナード周辺エリアの将来目指す姿を具体化する

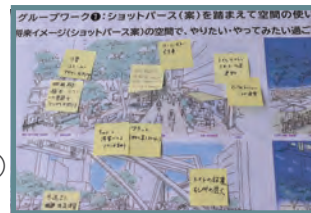
- ①中プロのショットパス(下地)をもとに、どんな空間になるべきか(利用シーン・空間イメージ)を意見交換
- ②まちづくりビジョンのフレーズについて参加者から提案



第6回目 中プロデザインラボ 2026年2月5日(木)

まちづくりビジョンのイメージを共有・確認する①

- ①まちづくりビジョン(原案)を提示・説明
- ②第5回ラボを踏まえて作成したショットパス(案)を基に、空間の使い方等をブラッシュアップするための意見交換
- ③まちづくりビジョンフレーズ(案)に関する意見交換・投票



第7回目 中プロデザインラボ 2026年4月27日(月)

まちづくりビジョン(素案)の報告

これまでのラボで意見交換をもとに作成したまちづくりビジョン(素案)を確認



現状・課題

これまでの東エリアでは、グランドデザインの目標に向けて、千葉駅を起点とする「歩行者中心の賑わい軸」を形成し、中央公園方向への人の流れを誘導することで、駅前賑わいを周辺に波及させるため、来街者を駅から市街地に誘因するための施設整備などの取組みを進めてきたが、東エリアにおける回遊性は十分に向上していない。

加えて、建築物の更新やそれに伴う高度利用、マンション開発の進行などにより、業務や商業など高次な都市機能が集積する都心から、住宅用途の割合が高まるなど、集積機能にも変化が生じている。

- 中央公園プロムナードの広幅員の車道が南北の分断要素になり、特定の通りや場所に集中している賑わいが東エリア全体に波及していない。
- Well-beingな暮らしや多様なライフスタイルを求める居住者や、観光客等も含めた「多様な人々が集まり賑わうまち」となるための「憩いや交流の場所」となる公共空間が十分に確保されていない。

中央公園プロムナードについて

中央公園プロムナードは、千葉駅から中央公園までを結ぶ東エリアの中央に位置しており、千葉市の顔となるシンボルロードとして、様々な主体による賑わいや過ごしやすい空間づくりのための取組みとその広がりが進んでいる。

更には、広い幅員と高い連続性・視認性を活かしたイベントの開催や滞在・憩いの場としての活用、沿道店舗との一体的な利用などの多様な使い方が見込まれる。

このことから、沿道建築物の更新と合わせて、プロムナードの空間と業務・商業機能が一体となって歩道空間を再編できる唯一の場所である。

交通結節点機能の強化（成田空港の拡張を見据え）

成田空港の拡張を見据え、千葉駅周辺には房総半島の玄関口として交通結節機能のさらなる強化が求められる。あわせて、単なる乗換拠点にとどまらず、「立ち寄り・過ごす価値のあるまち」としての機能向上が必要である。

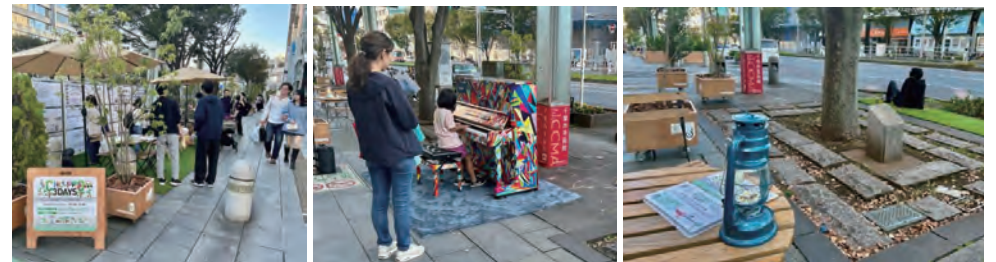
二つの軸による回遊性・滞在性の高いまちを形成することにより、交通利用者が出発前や到着後に立ち寄り、買い物や飲食、散策、休憩を楽しむといった多様な行動が生まれることで、駅周辺の賑わいを底上げするとともに、千葉駅周辺全体の一体的な価値向上につなげていく。

また、千葉駅周辺が成田空港及び房総地域を結ぶハブとなることで、国内外に開かれた拠点性を高め、千葉県全体の持続的な発展に寄与していく。

二つの軸による都市価値の向上

中央公園プロムナードについて、多様な人が滞在・憩いの場としての活用、沿道店舗との一体的な利用などの多様な使い方ができる新たな「緑の軸」を位置づけ・再編することにより、以下の効果が創出されることで、「多様な人々が集い賑わうまち」を実現し、価値向上につなげていく。

- 既存の「賑わいの軸」に、中央公園プロムナードの「緑の軸」を加えた2つの軸により、目的に応じた多様な過ごし方が可能となり、特定の通りや場所に偏らない人の流れを創出し、賑わいを波及させる。
- 中央公園プロムナードの車道幅員を縮小し、緑やオープンスペースを基調とした多様な過ごし方を可能とする「ひと中心」の公共空間に再編することで、区域の分断要素を解消し、沿道店舗との一体的な利用やイベントの開催などの多様な人々の取組みを受け止める「憩いや交流の場所」を創出する。
- また、千葉駅から中央公園、通町公園を経て千葉神社までの連続した緑の空間を創出し、来街者を駅から市街地に誘因することで、回遊性の向上と東エリア全体の「賑わいの波及」を創出する。
※全国的にも車中心から「ひと中心」のまちづくりを目指した取組みが行われており一定の成果があげられている。



様々な主体による賑わいや過ごしやすい空間づくりのための社会実験の様子

付録③ 軸による賑わいの波及イメージ(千葉駅周辺の活性化グランドデザインの抜粋)

「緑の軸」

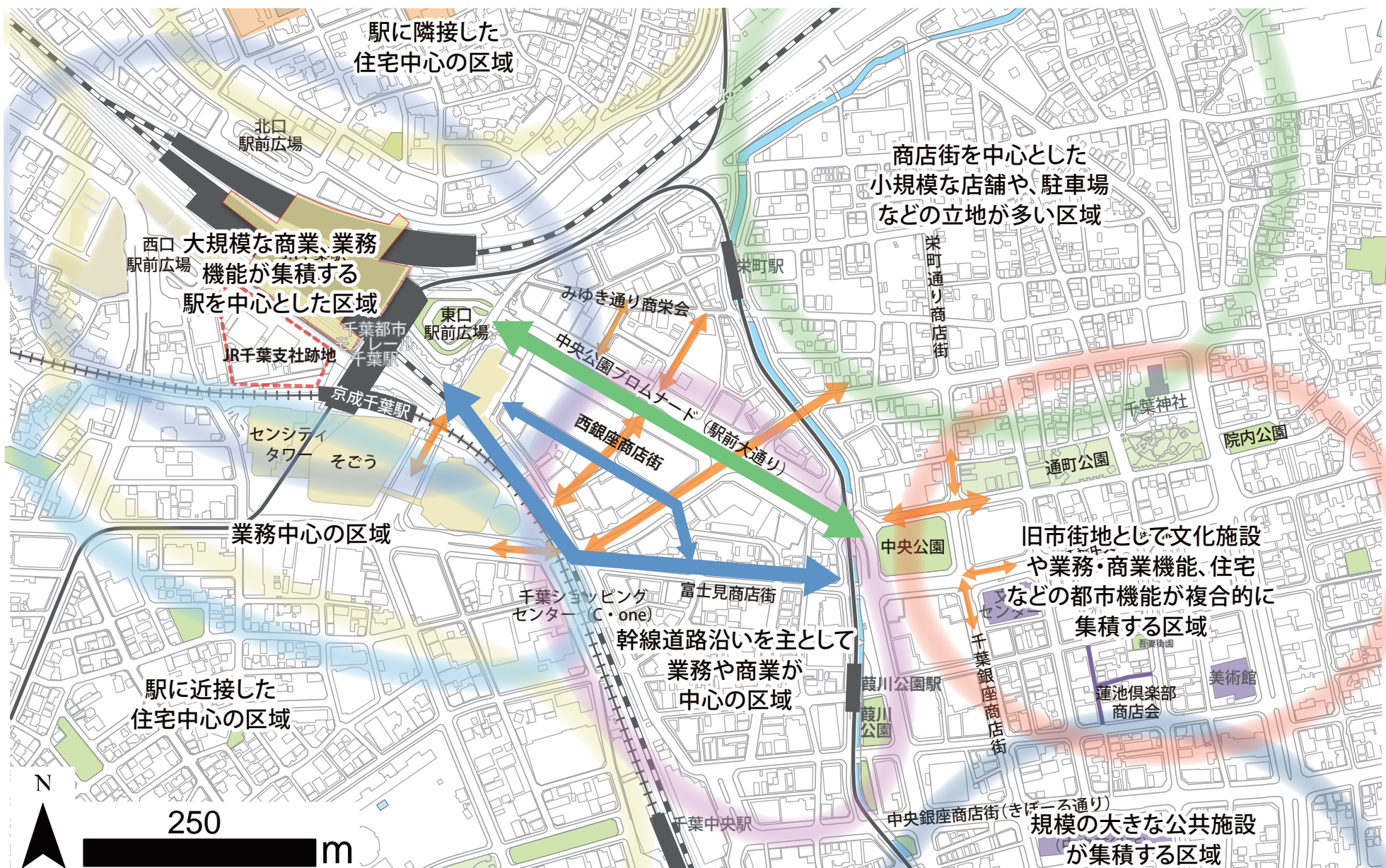
緑やオープンスペースを基調とした、滞在・憩い・日常利用の場として、多様な目的に応じた過ごし方を可能とする空間を形成する。

「賑わいの軸」

歩行者中心の買い物や飲食、イベントなど目的性の高い行動が連続的に展開される軸であり、来街者を惹きつけ活気をもたらす役割を担う。

「賑わいの波及」

2つの軸が相互に機能することによる周辺への賑わいの波及。





中央公園プロムナード周辺の まちづくりビジョン

策 定 令和8年6月

千葉市 （都市局都市部都市計画課）

〒260-8722

千葉市中央区千葉港1番1号

電話（043）245-5305

電話（043）245-5111（代表番号）